



一般財団法人メルディア主催／アート展

BORDERLESS

2021

をるのラ
イえトカ
カ越一チ
サ
ア



鑑賞をもっとボーダレスに
広がるアートの力と楽しみ方

2回目の開催となる一般財団法人メルディア主催のアート展「BORDERLESS／アートがサカイをこえていく」を盛況のうちに終了することができました。会場に足を運んでいた皆さん、オンラインで作品を鑑賞していただいた皆さんには感謝があります。

2021年ほど、コロナ禍の影響で各種のイベントを初めとしてアート展などが中止や延期になることが多くありました。

しかし、国や行政から発出されるイベントの開催における安全や衛生に関するレギュレーションを厳しく遵守して開催しているアート展もありました。これらを観覧した人たちの中からは「アートを見たら元気がなった」とか、「美術展を観覧できることが、こんなに嬉しいとは思ってもみなかった」という声を聞くことが多くありました。

この意見を聞いて、未曾有の事態に晒されて緊張した毎日を強いられる現在の私たちを癒やすことができるのがアートの力なのかも知れないと考えることがありました。

こうした状況を打破するための新たな試みも取り入れられました。それが、インターネットに接続できる環境や機器さえあれば、どこでもアート展の雰囲気を感じ体験できる「3D-VRシアター」の

システムです。

このシステムの導入によって、アート展のタイトルに冠された「BORDERLESS」の本当の意味に「一歩だけでも近づける」ことができたかもしれません。

作品が販売されることの意味
未来の選択肢を増やす可能性

本アート展では、気に入った作品があれば購入することも可能となりました。他のアート展とは違って、作品を購入できるという部分には大きな意味があります。

日本人は「無類のアート好き」と言われています。しかし、それは一部の富裕層の動向に限って言及されていることです。他国に比べて市場規模は遥かに小さく、好きな作品を日常空間に飾って楽しむという習慣は醸成されていないと感じます。

作品が購入されることで、作家たちはそれを原資にして生活費や画材代を捻出します。もちろん、金銭的なことだけでなく、作家自身の持つ思いや技術を込めた作品が他者に認められた証しにもなります。さらには、作品が購入されることで作家自身の存在意義を高めることにも繋がっていき、その後の制作活動のモチベーションを上げることもなっています。

前回同様、今回も障がいのある作家

の作品が複数売れました。自身の作品が売れたことを知らされた障がいのある作家の中には、以前にも増して意欲的に制作に取り組むようになった人もいたという報告もありました。

作品が売れたことで、障がいのある作家さんたちが利用する福祉事業所の職員さんたちの意識も変わったといえます。

それまでは「施設利用者の一人」であつた人が「施設の中で制作に励む一人の作家」であることを再認識し、以前にも増した制作活動の支援をするようになったそうです。

——アート展の観覧に訪れた布施博さんが「障がいのあるなしに関わらず、その人が持つ個性を周囲が認めてあげること、誰かが才能に気付いてあげることが必要だ」と話していました。

障がいのある人たちの個性を認め、それぞれが持つ才能や技術を世に送り出すための支援が必要であること。それが、障がいのある人たちの将来における選択肢を増やすことに繋がることを本アート展を通して、改めて私も気付くことができました。

BORDERLESS 2021 / 3D-VRシアター

<https://my.matterport.com/show/?m=2PvqmQ8Po3g>



Aplusc

アプリュッセー合同会社 代表
アートディレクター

入澤日彩子
(いりさわ ひさこ)

神戸市出身。大学卒業後、金融機関でトレーディング部門や企画、教育部門を経験。2016年に展覧会の企画・運営やアーティストのマネージメントを行うアプリュッセー合同会社を設立。

アプリュッセー合同会社
東京都千代田区神田小川町1-8-3 3F
TEL / 03-6868-4021
<https://www.apluscj.com/>



<https://www.instagram.com/aplusc>